

平成23年度「株式学習ゲーム」の実施状況と 参加校からのアンケート調査結果について

日本証券業協会
株式会社東京証券取引所グループ

「株式学習ゲーム」は、中学生・高校生を主な対象として、株式の模擬売買を通じて現実の生きた経済や市場の動きを身近に感じながら、経済の動きや社会の仕組みなどについて体験的に学習するプログラムとして、日本証券業協会、東京証券取引所グループが学校向けに提供している教材である。

1. 実施状況

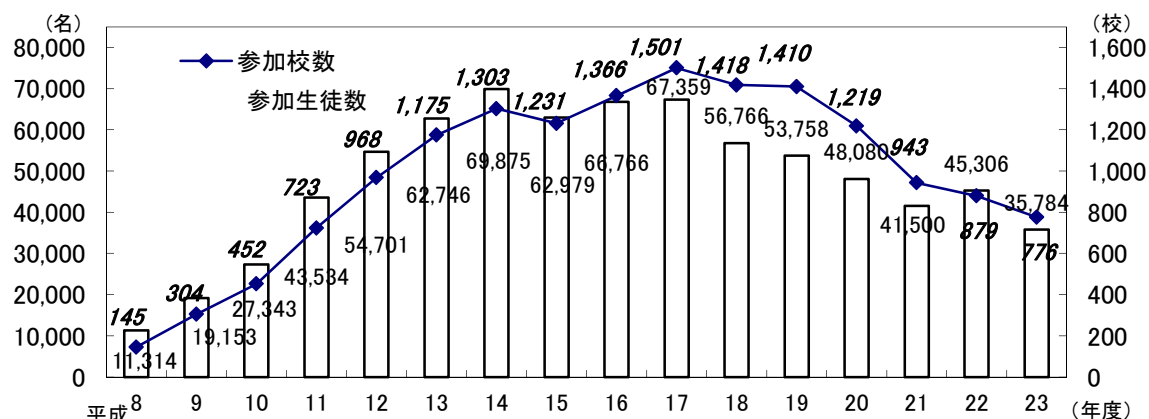
(1) 参加校数・参加生徒数など

平成23年度は、他の学習教材との競合や中学校での新学習指導要領の移行期間入りに伴う実施時数の確保難などにより、合計参加校数は前年度（879校）より減少し、全国で776校となり、参加人数も前年度（45,306人）より減少し、35,784人となった。

（第1表）参加校数・参加生徒数（春季・秋季・冬季別）

実施期間	参加方式	参加校数(校)	参加生徒数(名)
春 季 (平成23年4月12日～8月6日)	マークシート方式	98	5,128
	インターネット方式	106	4,801
	(両方式計)	204	9,929
秋 季 (平成23年8月16日～12月17日)	マークシート方式	66	4,390
	インターネット方式	300	14,144
	(両方式計)	366	18,534
冬 季 (平成24年1月11日～2月28日)	マークシート方式	33	1,242
	インターネット方式	173	6,079
	(両方式計)	206	7,321
年間合計	マークシート方式	197	10,760
	インターネット方式	579	25,024
総 合 計	(両方式合計)	776	35,784

（第1図）参加校数・参加生徒数の推移



※1 平成14年度以降はインターネット方式が併行導入されたため、従来方式のマークシート方式と合算した数字となっている。

※2 平成17年度に複数学期にまたがって参加した学校の集計方法について見直しを行った結果、平成14～16年度の数字が一部修正となった。

参加校（776校）の内訳は、高等学校 42.7%（331校）と最も多く、次いで中学校が 39.2%（304校）、大学 13.9%（108校）、その他の学校等が 4.2%（33校）だった。

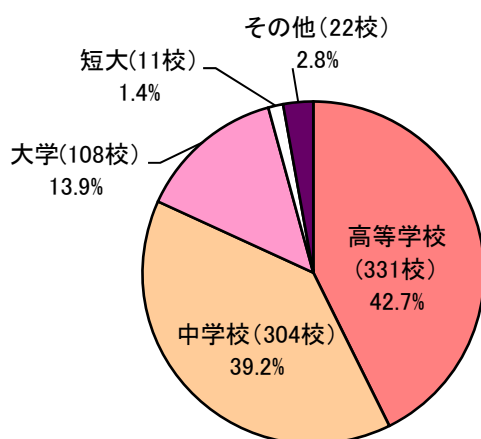
ちなみに、前年度の参加校数（879校）の内訳は、中学校が 47.3%（416校）と半数程度を占め、次いで高等学校 40.6%（357校）、大学 8.6%（76校）、その他の学校等が 3.4%（30校）だった。

前年度と比べて、中学校は 112校減（26.9%減）と大幅に減少したものの、大学では 32校増（42.1%増）と大幅に増加した。

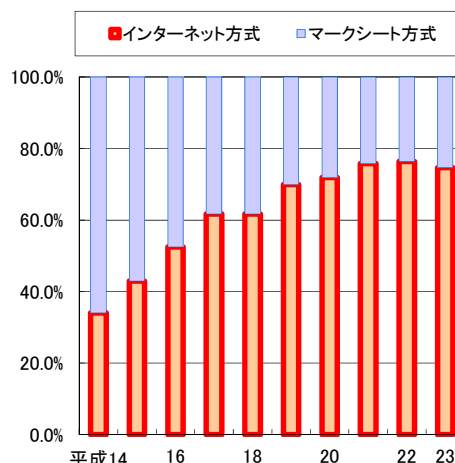
また、期間別の参加校数の内訳は、春季 26.3%（204校）、秋季 47.2%（366校）、冬季 26.5%（206校）となっている。

なお、平成 14 年度より導入したインターネット方式による参加比率は 74.6%（全参加校 776校のうち 579校）となり、年々、増加傾向（昨年度 76.3%）にあるものの、近年ではほぼ横ばいに推移している。

（第 2 図）参加校（776 校）の内訳



（第 3 図）方式別の参加比率の推移



(年度)

（２）売買の傾向

平成 23 年度（3 期間合計）において、売買回数の最も多かった銘柄は、グリーだった。以下、2 位ソフトバンク、3 位ソニー、4 位任天堂、5 位サンリオ、6 位ローソン、7 位オリエンタルランド、8 位ドン・キホーテ、9 位しまむら、10 位 KDDI の順となった。

例年と同様に、ゲーム関連会社や携帯電話会社などのほか、生徒にとって身近な会社や知名度の高い会社などの売買回数が多かった。

（第 2 表）売買回数の多い銘柄一覧（過去 3 年分）

順位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
1 位	任天堂	ソフトバンク	グリー
2 位	ソニー	任天堂	ソフトバンク
3 位	ソフトバンク	ソニー	ソニー
4 位	トヨタ自動車	グリー	任天堂
5 位	アサヒビール	ドン・キホーテ	サンリオ
6 位	ニトリ	カプコン	ローソン
7 位	ローソン	オリエンタルランド	オリエンタルランド
8 位	ドン・キホーテ	ヤフー	ドン・キホーテ
9 位	ファーストリテイリング	トヨタ自動車	しまむら
10 位	ヤフー	パナソニック	KDDI

2. アンケート調査結果

毎年、株式学習ゲームの終了後、参加した学校の先生方を対象にアンケート調査を実施している。平成23年度は、240校（中学校91校、高等学校111校、大学その他38校）から回答を得た。回答内容等の詳細については、以下のとおりである。

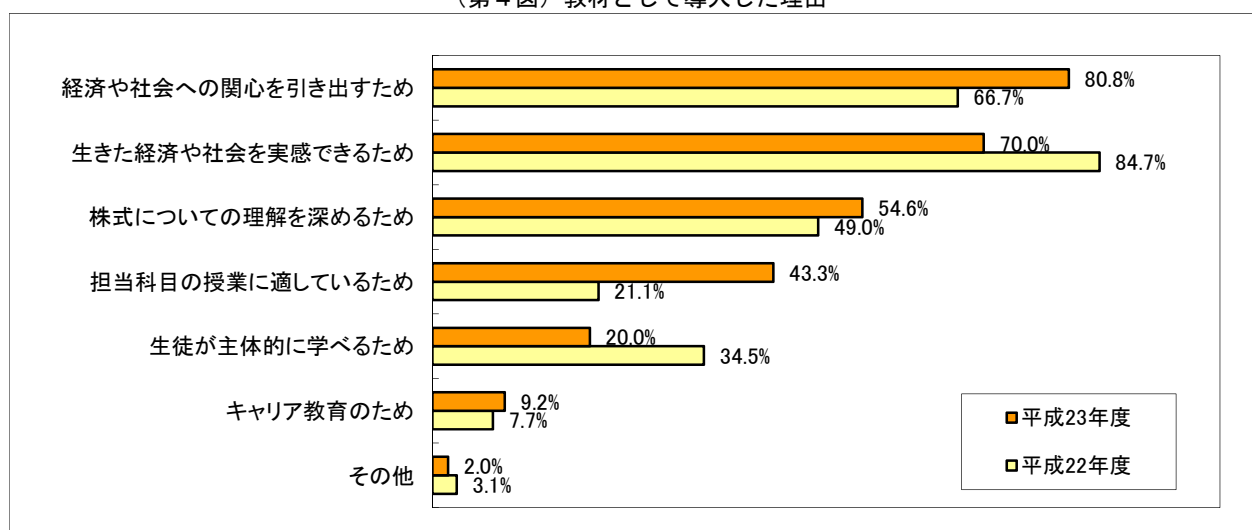
（1）株式学習ゲームを教材として導入した理由について（複数回答）

本教材を導入した理由について尋ねたところ、「経済や社会への関心を引き出すため」という回答が80.8%（194校）と最も多かった。

次いで、「生きた経済や社会を実感できるため」70.0%（168校）、「株式についての理解を深めるため」54.6%（131校）、「担当科目の授業に適しているため」43.3%（104校）、「生徒が主体的に学べるため」20.0%（48校）、「キャリア教育のため」9.2%（22校）などが挙げられた。そのほかでは、「意思決定能力と考える力を伸ばすため」、「新聞やニュースに目を通すようになってもらいたかったため」といった回答も寄せられた。

座学だけではなく、生きた経済や社会を実感させたいと考えている先生が多いようである。

（第4図）教材として導入した理由



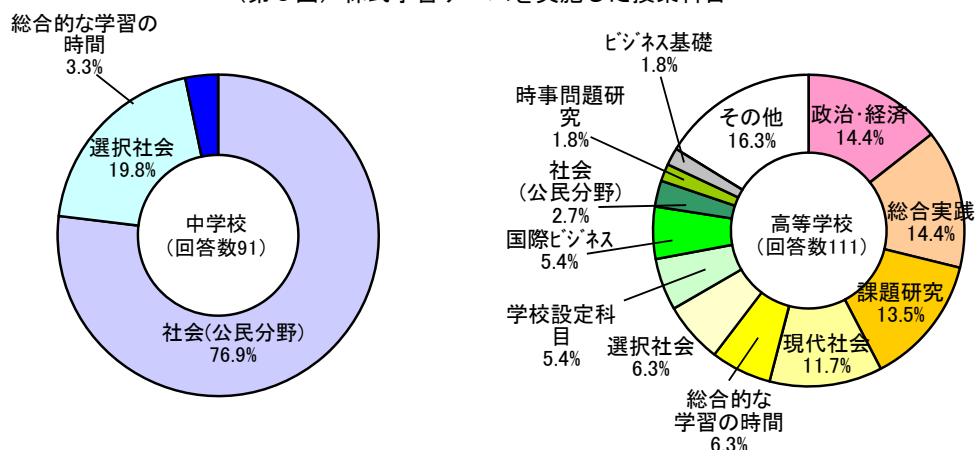
（2）実施した授業科目について

実施した授業科目について尋ねたところ、中学校（回答数91校）では、「社会（公民分野）」76.9%（70校）、「選択社会」19.8%（18校）などが多かった。

一方、高等学校（回答数111校）では、「政治・経済」と「総合実践」の授業での実施が14.4%（16校）と最も多く、これに、「課題研究」13.5%（15校）、「現代社会」11.7%（13校）、「総合的な学習の時間」と、「選択社会」6.3%（7校）などが続いた。

授業科目についてはほぼ例年と同じような回答内容だったが、割合について比較すると、中学校では、「選択社会」が42.0%から19.8%に急減したのに対し、「社会（公民分野）」は51.9%から76.9%に急増し、半数以上を占める結果となった。

（第5図）株式学習ゲームを実施した授業科目

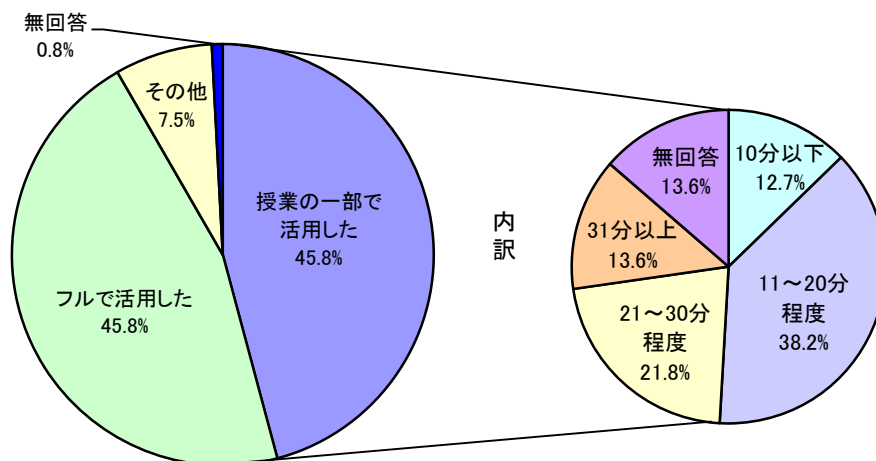


（３）株式学習ゲームの活用時間と取引頻度について

一回の授業時間のうち、本教材をどの程度活用したかを尋ねたところ、「授業時間を全て活用した」と、「授業時間の一部で活用した」との回答が 45.8 %（110 校）と同数となった。そのほかの回答として「授業ではゲームの進め方の説明にとどめ、取引については休み時間等に考えさせた」、「導入時に 2 ～3 時間、その後チームで必要に応じて取引させた」などがあつた。

また、取引頻度については、「週に一回程度」が 45.0%（108 校）と最も多く、次いで「二週間に一回程度」が 20.0%（48 校）、「月に一回程度」と、「自由取引」が 7.9%（19 校）、「週に二回程度」が 4.2%（10 校）あつた。

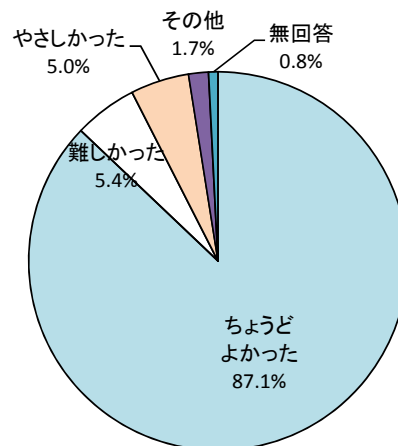
（第 6 図）株式学習ゲームの活用時間



（４）株式学習ゲームの難易度について

本教材の難易度について尋ねたところ、「ちょうどよかった」と回答した学校が 87.1%（209 校）と最も多かったが、「難しかった」と答えた学校も 5.4%（13 校）あつた。その理由として「株価が上下する理由がわからない」や「会社四季報の読み方が生徒には難しい」といったことが挙げられた。また、「やさしかった」と答えた学校は 5.0%（12 校）あつた。

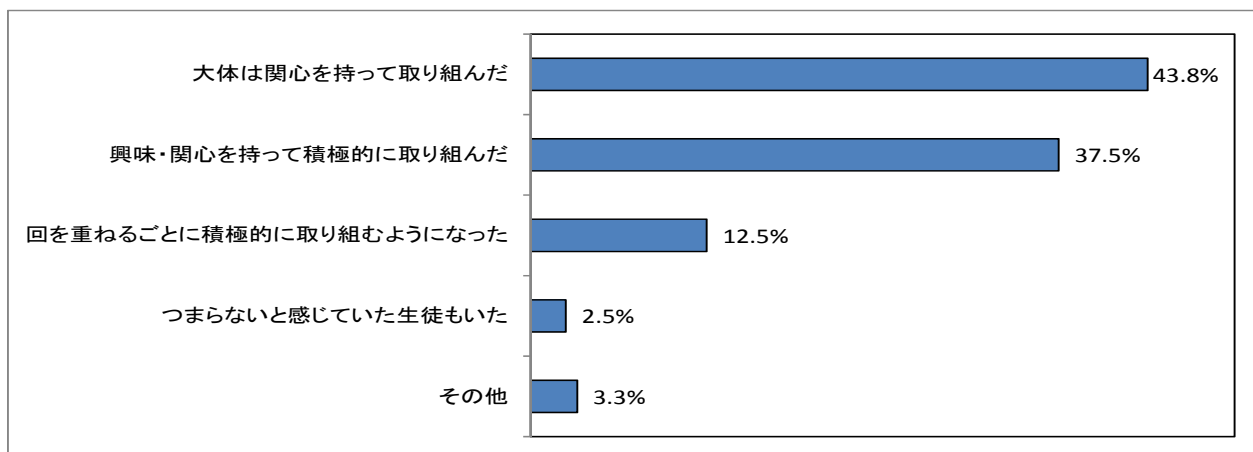
（第 7 図）株式学習ゲームの難易度について



（５）生徒の取り組み姿勢について（複数回答）

生徒の取り組み姿勢について尋ねたところ、最も多かったのは「大体は関心を持って取り組んだ」という回答で 43.8%（105 校）だった。以下、「興味・関心を持って積極的に取り組んだ」37.5%（90 校）、「回を重ねるごとに積極的に取り組むようになった」12.5%（30 校）、「つまらないと感じていた生徒もいた」2.5%（6 校）などの順だった。

（第 8 図）生徒の取り組み姿勢について



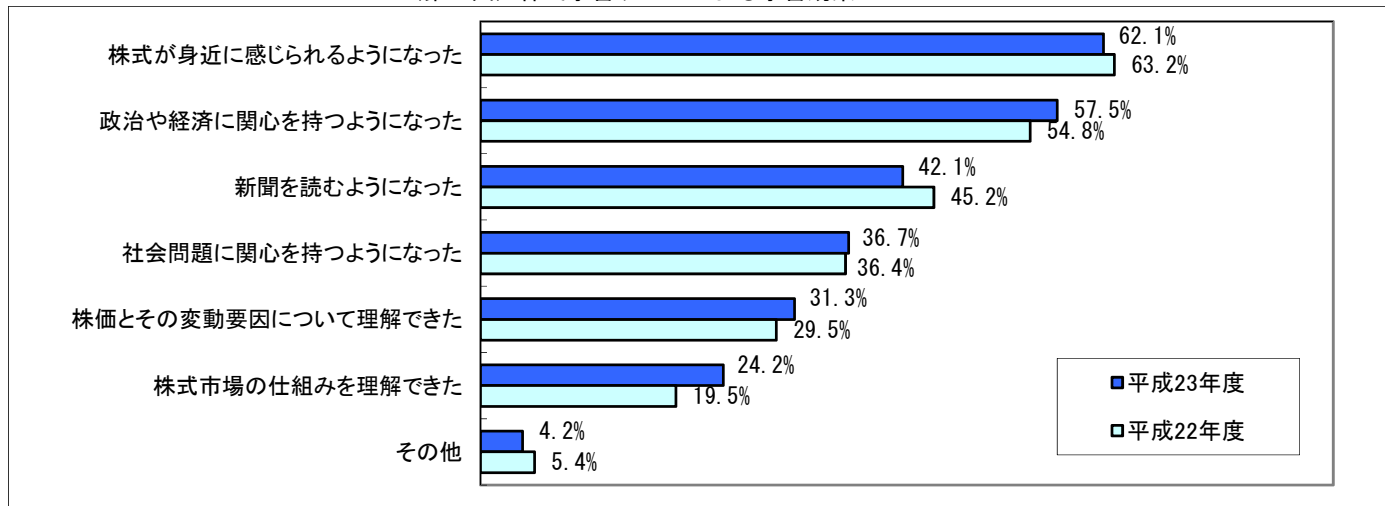
（６）株式学習ゲームによる学習効果について（複数回答）

本教材を授業に導入して、どのような学習効果があったかについて尋ねたところ、「株式が身近に感じられるようになった」62.1%（149校）と最も多く、以下、「政治や経済に関心を持つようになった」との回答が57.5%（138校）、「新聞（株式欄、政治・経済面、社会面）を読むようになった」42.1%（101校）と続いた。

また、「社会問題に関心を持つようになった」36.7%（88校）、「株価とその変動要因について理解できた」31.3%（75校）、「株式市場の仕組みを理解できた」24.2%（58校）などの回答があった。

そのほか、「会社のことについて興味をもつようになった」、「企業内容が理解できた」、「就職活動の参考になった」といった回答も寄せられた。

（第9図）株式学習ゲームによる学習効果について



（７）提供教材以外に利用した教材等について（複数回答）

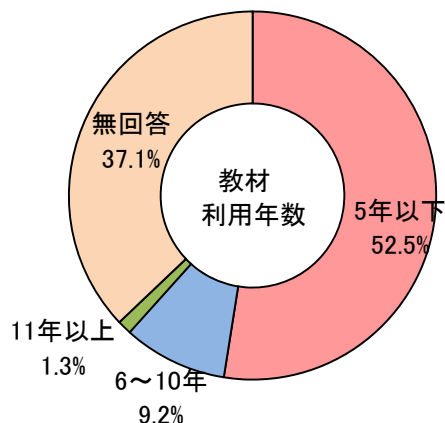
本教材を使った授業を進める上で、独自に利用した資料等について尋ねたところ、「新聞（記事の抜粋を含む）」が35校、「インターネット（Yahoo!ファイナンス、各新聞社、金融関連、各企業）のサイトなど」が7校、「自作のプリント」が9校であった。

そのほか、『日経業界地図』、『はじめての金融ガイド』（金融庁）、『新証券市場』（日本証券業協会）などが挙げられた。また、実際の有価証券報告書などを利用した学校もあった。

（８）株式学習ゲームの継続利用状況について

本教材を以前から利用している学校（回答数240校）へ利用年数について尋ねたところ、「1～5年」が52.5%（126校）、「6～10年」が9.2%（22校）、「11年以上」が1.3%（3校）であった。

（第10図）株式学習ゲームの継続利用状況



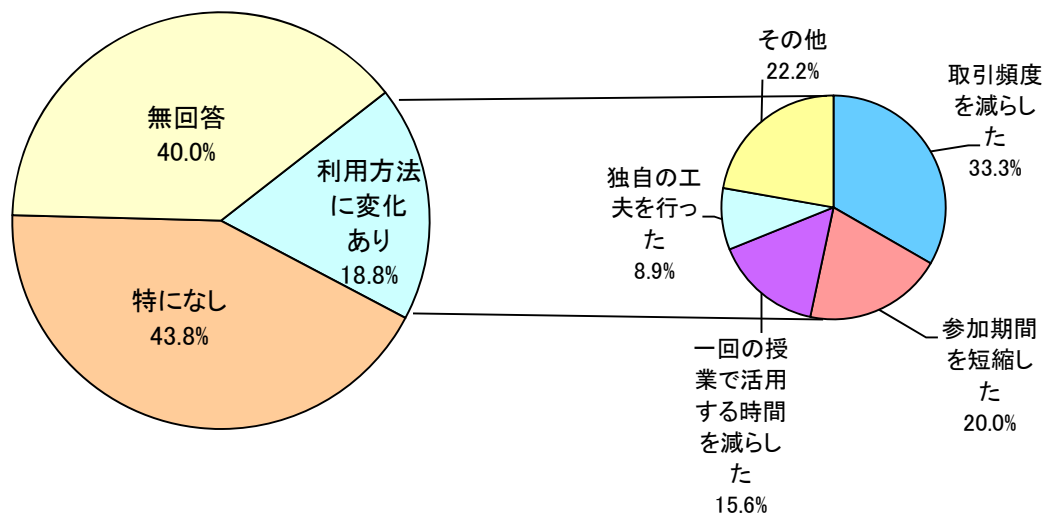
（９）学習指導要領改訂の影響について

継続して利用している先生に、学習指導要領改訂を受けて、本教材の利用方法・利用時間等に変化があったかどうかを尋ねたところ、「特になし」と答えた学校が 43.8%（105 校）、「利用方法に変化があった」と答えた学校が 18.8%（45 校）であった。

変化のあった学校からは、「取引頻度を減らした」33.3%（15 校）、「参加期間を短縮した」20.0%（9 校）、「一回の授業で活用する時間を減らした」15.6%（7 校）、「独自の工夫を行った」8.9%（4 校）等の回答を得た。

なお、学習指導要領改訂の影響について学校別に比較しても、大きな差は見られなかった。また、「来年はもっと増やしたい」という積極的な意見もあった。

（第 11 図）学習指導要領改訂の影響について



（第 3 表）学習指導要領改訂の影響について（学校別回答数内訳）

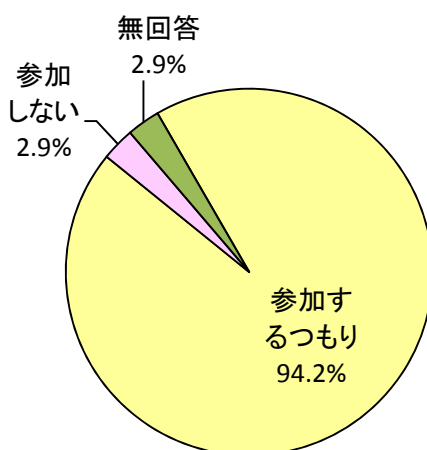
学習指導要領の改訂の影響について	回答数 (校)	学校別 回答数内訳		
		中学	高校	大学他
特になし	105	37	53	15
取引頻度を減らした	15	13	2	0
参加期間を短縮した	9	6	3	0
一回の授業で活用する時間を減らした	7	6	1	0
独自の工夫を行った	4	2	2	0
その他	10	5	5	0

（１０）今後の参加予定について

今後の参加予定について尋ねたところ、今後も「参加するつもり」と回答した学校が 94.2%（226 校）に及んだ。

一方、「参加しない」と回答した学校は 2.9%（7 校）あり、その理由は「退職のため」、「選択教科（社会）がなくなるため」、「時間が取れないため」、「授業内容の変化」などが挙げられた。

（第 12 図）今後の参加予定について



参考：以下は、アンケート調査と併せて、参加校の先生方から提出していただいた株式学習ゲームについての意見や感想等の概要である。

I. 先生方から見た生徒の反応、感想等（自由記入：240 校中 118 校より回答を得た）

1. 全体的な生徒の反応、感想等

先生方から見た生徒の反応についての全体的な感想としては、「株というものが世界情勢に影響されているということ、新聞を読むことの重要性がわかった」、「とても貴重で今後の社会人としての生活に役立つものだったと思う」、「実際に起きている社会・経済の問題などが株価に影響を与えることを知り、保有している企業の関連ニュースなど、時事問題を身近に感じるようになった」、「経済は自分たちに関係ないように見えて実はとても身近なものであると分かった」などの回答が寄せられた。

生徒たちは本教材を通じて、新聞やテレビなどのニュースに関心を持つようになり、経済・社会・企業について興味・関心を持って学習した様子が見える。

（第 i 表）

先生方から見た全体的な生徒の反応、感想等 (原文を要約後、区分)	回答数 (校)	学校別 回答数内訳		
		中学	高校	大学他
新聞やニュースに関心を持つようになった	37	15	16	6
経済や社会のことが分かった（関心を持った）	34	12	18	4
楽しく取り組むことができた	26	15	7	4
企業について興味・関心を持った	17	4	10	3
苦労した・難しかった	16	5	10	1
結果や順位が出るのが楽しみだった	12	5	5	2
良い体験ができた	11	2	5	4
みんなと協力してできた	7	5	0	2
もっとやりたかった・勉強したかった（またやりたい）	6	5	0	1
実際に株式の取引をしているようだった	4	0	1	3
株式や経済が家族との話題になった	3	2	1	0
就職活動に役立つと思った	3	1	0	2

2. 株式についての生徒の反応、感想等

実際に参加した生徒からは、「株式購入という視点から社会を見たり、調べると普段の生活では得られない情報等が得られた」「株を買うには、その会社のことをよく調べて、その会社が今からどういうことをしようとしているのかと、今、社会の状況はどうかをよく見ることが出来る力が必要だと思った」、「株式学習ゲームを体験してみて、自分が普段いかに日本や世界について無関心で生活していたのかということを改めて思い知らされた」「天災・事件・金融・国際関係など、株は日本だけではなく世界のたくさんのことと繋がっているのだと知った」「大人になったら自分でしっかり勉強をして実際の株取引に参加してみたいと思う」といった感想が寄せられた。

また、「株式に興味を持つようになり親子の会話が増えた」といった感想も生徒から寄せられている。

（第 ii 表）

先生方から見た株式についての生徒の反応、感想等 (原文を要約後、区分)	回答数 (校)	学校別 回答数内訳		
		中学	高校	大学他
株式などの仕組みが理解できた	40	18	16	6
株式に興味・関心を持つようになった	17	5	8	4
将来、実際に株式投資をしてみたい	10	4	4	2
株価の予測は難しい	8	3	5	0
将来、株式投資はしない	7	2	5	0
株式投資には知識や情報が必要	6	1	4	1
利益を上げるのは難しい	6	4	1	1
株式投資は面白い	2	1	0	1

Ⅱ. 先生方から寄せられた感想等（自由記入：240 校中 122 校より回答を得た）

1. 授業に取り入れた効果・感想や課題など

寄せられた感想では、「生徒たちは興味・関心を持って取り組むことができ、コミュニケーション能力・表現力・課題解決能力等を少しでも身につける事ができたと思う」、「実際の株価で変動するので、生徒たちが現在のニュースや社会情勢に興味を持つきっかけになった。生徒たちが主体的に学ぶことのできる教材なので今後も利用したいと思う」、「今回、この活動を通して、生徒が自らインターネットで経済社会欄の記事をすすんで調べるようになり、進路指導の面でも大いに役立った」、「非常に生徒の知的好奇心を刺激する内容であり、有意義な指導ができたと思っている」というような回答が寄せられた。本教材を使用することにより、銘柄選択および株価の動きを知るために、生徒が主体的に経済情報やニュースを調べ、興味・関心を持って学習することができる授業となっているようである。

一方、「導入時に証券取引に関する基礎的な学習を行ってから実施しないと、単なる売買ゲームになってしまう」「株の取引だけに興味を持ってしまうので、教師の指導工夫が必要である」、「公民の教科書通りに進めると、経済については2学期にならないと学習することができず、取引の回数、期間を十分にとることができない」、「現在の経済状況では、株価が上昇するケースがあまり多くなく、生徒たちも達成感を得にくかった」という意見も寄せられた。

（授業に取り入れたことによる効果・感想など）

・今後も継続して活用していきたい	21 校
・経済への興味・関心を引き出すのに役立った	18 校
・生徒が意欲的だった	13 校
・使い勝手がよかった（分かりやすかった）	11 校
・有意義な授業ができた	3 校
・楽しみながら学習できた	2 校

（今後の課題点など）

・指導が難しかった	13 校
・授業時間数、回数不足	6 校
・インターネット障害があった	6 校
・投機的売買になってしまう	5 校
・教材が中高生向けで扱いづらい（大学）	2 校
・相場が停滞気味で興味を持たせるのが難しかった	2 校

2. 授業での工夫やアレンジなど

工夫している点やアレンジしている点については、「新聞やニュース等の時事問題を取り上げた」という意見が最も多く 14 校あった。また、プレゼンテーションを行ったと答えた学校では、「購入理由や資産状況を発表させた」、「他のグループの選定理由などを聞き、購入する銘柄を再検討させた」といった学校があった。企業研究を行ったと答えた学校では、「キャリア教育の視点からの企業調べ」や「年間を通して保有し続ける株を 1 銘柄決め、その企業について、調査・発表させた。3 学期には実際に企業の担当者に授業に来てもらった。」といった意見もあった。そのほか、生徒の興味・関心を高めるため、取引結果や順位を廊下等に掲示したり、教師も参加し順位を競ったり、証券取引所の見学を行ったりする学校もあった。

（第Ⅲ表）

工夫している点・アレンジしている点等 （原文を要約後、区分）	回答数 （校）	学校別 回答数内訳		
		中学	高校	大学他
時事問題（新聞、テレビのニュース、インターネット）を取り上げた	14	4	8	2
プレゼンテーションを行う	10	3	4	3
企業研究（CSR・ニュース・企業見学など）	9	1	4	4
独自のワークシート等を使用した	9	2	5	2
レポートを提出させた	7	2	5	0
取引結果や順位を掲示した	7	3	4	0
株式や株式会社にに関する講義を行った	6	1	4	1
売買理由を明確にさせた	2	2	0	0

以上